

会員の投稿

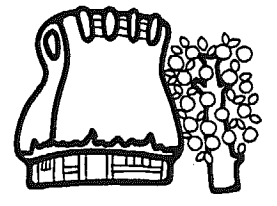
街かど

「街かど」は皆さんのページです。皆さんの投稿は原則として、必ず掲載します。スページの都合で一部省略する場合があります。募集するものは町に對するご意見、ご要望や、短歌、俳句、川柳、詩、絵画、イラスト、写真などの作品、その他です。原稿の返却を希望される場合は、郵送料を同封してください。文字を書くのはどうも苦手という方は電話してください。取材に伺います。氏名などを公表したくない方は匿名にしますが、編集部へは氏名、住所、電話番号を知らせてください。投稿・連絡先 黒崎町大野二八四三、黒崎町役場企画開発課 広報くろさき 街かど係 ☎七三〇一

ソ連抑留者に慰めあったか

太平洋戦争終結時、ソ連は旧満州、樺太、千島、北朝鮮にいた日本軍及び関係者ら約六十万人をトキョーグモイ（日本へ帰還）といつて、貨物船や貨車に乗せてシベリアへ連行し捕虜として強制労働させた。

ボツダム宣言と天皇の奉勅命令によれば、武器を捨て早く帰国して日本の復興に、またそれぞれの生業に就くことになつてははずで、戦時捕虜ではなかつたはずである。ところが、短くて二、三年、凍つる夜煎じる薬 猿の腰かけ 妙薬であつてほしいと 念じつつ見上げれば 月影の白き厨の窓に



わたしどもは戦後の平和時にありながら、厳冬のシベリアで飢餓と絶望の中で重労働を強いられた。悲惨としかいいようのない生活の中で、残してきた家族を案じ、帰国の一日も早いことを待ちわびた。そう祈りつつ亡くなった人たちは五万五千人といわれる。この人たちの遺体は凍土の中に葬られた。戦後四十年たった今日、政府は遺骨収集やその引き取り

わたしどもに對する強制抑留の措置がソ連の不法行為であるか否かは別として、わたしどもの労働が賠償のためのものであつたことは、終戦時、外務省の解釈の如く争えない事実だといふ。国際間の戦時賠償というものは、偶然その場に居合わせた不運な一部の国民だけが負担すべきものでは決してなく、国として解決し清算すべきものである。戦争中の彼我相方の犠牲ならば、それなりに理解し甘受することがあり得ても、戦後の平和時に数万の死者を伴う賠償労働が不問に付されてよいはずはない。

全抑留者支部 (上山田第三) 田代敏男

西ドイツ政府はソ連の強制抑留者に對し、いち早く補償特別立法を制定し国として慰籍を行つてゐるのに、わが国はいく度か国会にとりあげられながらも陽の目を見ることなく、今日に至つては極めて遺憾なことである。世界に冠たる経済大国日本の内に抱える恥部でもある。強制連行された者五十九万四千名、不具痲疾病者となり送還された者四万六千名、異国の土に化した者五万五千名、その総労働日数七億日という。このような戦場に劣らぬ犠牲をみながら、その任務に耐え生還した抑留者にとつては未だ戦後の処理は終わつていないことを訴えたい。

わたしどもに對する強制抑留の措置がソ連の不法行為であるか否かは別として、わたしどもの労働が賠償のためのものであつたことは、終戦時、外務省の解釈の如く争えない事実だといふ。国際間の戦時賠償というものは、偶然その場に居合わせた不運な一部の国民だけが負担すべきものでは決してなく、国として解決し清算すべきものである。戦争中の彼我相方の犠牲ならば、それなりに理解し甘受することがあり得ても、戦後の平和時に数万の死者を伴う賠償労働が不問に付されてよいはずはない。

抑留されたかた連絡を 全国抑留者協議会黒崎支部の会員は現在七十名です。抑留されたかたはご連絡ください。 ☎7258 田代

漢詩

板井 萩野 寛心
郷 (ふるさと)
信 中川 流 弗 盡 長
弥 田 峻 影 不 姿 荒
陸 徑 錯 總 車 更 重
作 地 年 年 其 面 傷
七 陽 の 韻 * 信 濃 川 と 中 の 口 川、 弥 田、 弥 彦 山 と 角 田 山 峻 影、 山 の 屈 曲 の よう す、 陸 徑、 道 の こと

短歌

短歌会
朝庭におもむきそえて雪のあり南天の実の一きわ映えて
雪かけどかきたるあとも積りくる今日一日は雪となるらし
逝く日まで夫のつけし腕時計時刻む音今も変わらず
孫達の帰り来る日も迫りしに頭痛悪寒は一向癒えず
古家の障子戸白く明るみて初明り今狭庭より入る
かあさんの代りに来たかと問う我に窓口の少女ほほえみを見ず
新聞の文化欄にて伝記読み千涯大人との交遊思ふ
百八つ茶碗に数えきたる豆皿に分けつつ除夜の鐘撞く

俳句

黒崎俳句会
寒の水米とぎし手を湯に浸す 早川 ウメ
足跡も無き入口や一人者 田辺 正二
初手前部屋一ぱいの茶の香り 鷲頭 静江
雪の夜は三平汁よ酒を飲む 倉橋 義雄
追憶は皆美しき雪の色 白川 代香
編みあきて風花舞うを見て追いつ 斎藤 モト
軒下に四肢伸ぶ犬や春めきぬ 高橋 睦治
野佛の赤き頭巾や雪激し 斎藤 美芳

俳句

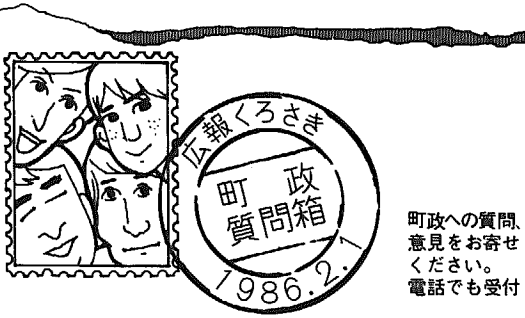
凍解や客なくうつらうつらかな 滝沢 ちえ
雪の夜に母の香のする湯場かな 浅間 しげ
雪路を孫後ろ手でババの眞似 菊地 八重子
凍雪を渡り凍田を通り来る 長谷川 一定
子どもらの長靴とりし吹雪はまり 神原 孝子
大樺花火の如き冬の空 木下 富代
松の葉の一本ずつの水柱かな 小泉 翠
スルメ焼く子らなに願う壺の神 丸山 三夫



一人より二人(サークル紹介) 一步の会(手話)

手話さえわかれば聴覚障害者はだれでも話せます

一步の会(高橋孝一会長)は一昨年社会福祉協議会が主催した手話講習会を受講されたかたがたが作られたボランティアサークルです。十五人の会員は高校生から六十歳代のお年寄りまで。毎月二回、中央公民館で手話を勉強しています。三年ほど続けている近藤洋子さん(善久)は、「二年前くらいで覚えられたいと思います。難しい、ただ楽しい。新しい言葉を覚えられるんですから」。小林信子さんは「みんなと勉強することが楽しい」と話します。最年長の松田フネさん(興野)、「ボケ防止もあるんですけど、まだ何かできると思つて」参加しました。仕事の関係で始めたのは黒川ムツさん(大野)と山田多智子さん(大野)。黒川さんは主宰する毛糸教室にううあ者が来られたことから、山田さんは会社で



町政への質問、意見をお寄せください。電話でも受付

広報の外来(国)語には意味を

野崎佐五郎さん(72歳・小平方) 町長、毎日の激務にお疲れのこととお察します。健康に十分注意してください。 さて、一つ町民として小さなお願いがあります。広報についてです。わたしは広報つづりが家庭に届いて以来、何年も欠かさず広報を大切に保存しています。町政を知る勉強や資料になるからです。家族も見よういちばん見やすい所に掛けておき、下手な字ですが「家族みんなで見ましょう。読みましょう」と記しています。年度が変わると保管します。 広報には大切なこと、重要な記事が載っていますが、困ったことに外国語が使われているときがあるのです。現代社会において、英語などが使用されるのは当然だと思われまじ、決して悪いとは申しません。 しかし、2万2千人の町民のうち、小学校しか出ていない人や老人がたくさんいます。老人も町政を知る権利があります。英語などの言葉を使ったならば、その意味を日本語で書いてもらえないでしょうか。例えば、2月号の一般質問に「...土木関係はフルネームは...」とありますが、フルネームのところに氏名と付け加えればよくわかるのです。そうすれば、より町政を理解できると思います。新聞では外国語のところに意味が書かれてあります。 広報は町民からよく読んでもらって意味が通じて、初めて広報の意義があると思います。ご検討をお願いします。

外来(国)語は慎重に扱います

企画開発課広報統計係 広報をご愛読していただきありがとうございます。ご意見の件ですが、係では十分に外来語、外国語の使用には注意しております。例えば、広報の最後のページは以前「マイ・ウェイ(わたしの人生という意味)を昨年10月号から「人・それを人生という」に変更しました。聞き慣れない言葉(例:コンセンサス...同意)、専門用語(例:ジャンクション...自動車専用道路を結ぶ施設)は意味を付けるようにしています。ただ、浸透してきた言葉には意味をつけません。その判断が難しいのです。12月号でメリット(利益)、デメリット(不利益)という言葉を使いましたが、これには意味をつけませんでした。今考えると、つけた方がよかつたと思ひ反省しています。行政は多くの人に理解してもらう必要がありますから、外国語が定着した段階で使用すべきなのですが、国県は一般に先がけて使用する場合が多く、係でも苦労しています。 広報の記事の言葉使いの基準は中学生やお年寄りが読んでもわかる、こととを考えています。活字も新聞より大きくしています。野崎さんの「老人も町政を知る権利がある」、その一言を胸に今後も編集します。